

2010年度建設工学科新入生合宿研修

2010年4月10日（土）～11日（日）、建設工学科昼間コース83名、夜間主コース12名の新入生を対象とした合宿研修が行われました。学生に加え、1年担任4名（成行、上月、河口、渡辺公）と建設工学科教員2名（橋本、中野）も加わった総勢101名での研修となりました。

4月10日朝8時30分、晴天の中、建設棟前に集合した一行は、バス2台に分かれて吉野川第十堰と徳島県立防災センターに向かいました。南岸から見学した吉野川第十堰では、中野教授の解説により、堤防や堰の仕組みや災害への備えについて学びました。徳島県立防災センターでは、職員の方の説明を聞きながら、地震、消火、煙、風の体験コーナーでこれらの災害を体験することができました。

午後からは美馬市脇町に移動し、明治時代に「お雇い外国人」としてオランダから来日したデ・レーケが指導した、大谷川の砂防堰堤（デレーケ堰堤）で昼食（弁当）となりました。上月教授の解説を聞きながら、実際の堰堤を間近で見学することができました。当日は堰堤近くの公園に植えられたチューリップが満開で、とてもきれいでした。昼食後、脇町の伝統的建造物群保存地区（伝建地区）に移動し、1時間30分程度、美馬市観光ボランティアガイドの方の解説を聞きながら、「うだつ」のまちなみを見学しました。江戸時代の建物も数棟残っており、貴重な木造伝統建築物に接することができました。

その後、16時過ぎに宿舎に到着し、ワークショップを行いました。ワークショップでは、見学した吉野川第十堰、徳島県立防災センター、脇町伝建地区の中から1つを選び、班ごとに写真を使いながらその紹介ポスターを作成しました。今回の研修では、事前学習として吉野川第十堰と脇町の伝統的建築物について学ぶ機会があり、その成果も活かされたようです。

翌朝9時に宿舎を出発し、吉野川市の美郷ほたる館を訪問しました。まだ蛍の季節ではありませんでしたが、蛍に関する興味深い展示が多数あり、館の周囲は桜が満開でした。10時過ぎに美郷ほたる館を出発し、12時前に工学部に到着、解散となりました。

見学先も多く密度の濃い研修でしたが、晴天にも恵まれ、学生、教員ともに有意義な時間を過ごすことができました。



吉野川第十堰の見学



徳島県立防災センターでの風体験



デレーケ堰堤での解説



脇町見学



美郷ほたる館の前で



ワークショップ